

令和5年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	おかやまけんちょうしゃたいしんかせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	岡山県庁舎耐震化整備事業
2. 事業(施策)実施期間	令和2年 10月 2日 ~ 令和6年 3月 29日
3. 事業費(工事費)	約 15,700 百万円
4. キーワード	耐震補強・長寿命化、災害対策拠点、DOCOMOMOjapan 選定建築物
5. 事業概要	昭和 32 年竣工の岡山県庁舎の本庁舎(本館)及び議会棟(旧館)(以下「本館等」という。)を耐震化し、災害対策拠点としての機能の確保・強化を図るとともに、内外装、設備等の長寿命化改修を行ったものである。

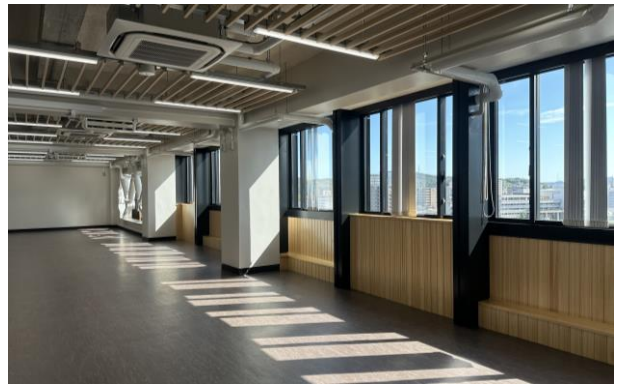
6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既往技術の創意工夫、活用 () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a) 当該事業による本来目的の効果 (e) 良好な景観形成の実現 (f) 地域の活性化 (h) 省エネルギー、省資源化 (i) 環境保全対策 (j) 耐久性の向上 (l) その他	() () () () () () ()

7. 特にアピールしたい点
<p>【外観意匠の維持・再現】 本館等は、日本の著名な建築家の一人である前川國男氏が設計した歴史的・文化的価値のある建築物であり、「DOCOMOMOjapan」に選定されている。 このことから、本工事における建物の外観改修においては建築当時の意匠を維持、または再現することを原則とした。</p> <p>【居ながら工事への対応】 本工事は、工事中も県庁舎としての機能を継続する必要があったため、本庁舎(本館)を3つの工区に分け、順次、課室を仮移転させながら実施した。そのため、施設利用者の動線確保や騒音・振動等への対応には大変苦慮したが、関係者間で常に連絡調整を図り、工期内に工事を完成させるよう尽力した。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



<外観(北面)>



<内観>

9. 事業内容・添付資料

【事業概要】

本館等は、1957(昭和32)年の竣工以来、60年以上の長きにわたり使用しているが、耐震性能の不足をはじめ、老朽化や執務環境などに課題があった。

このため、本館等を耐震化し、災害対策拠点としての機能の確保・強化を図るとともに、今後50年程度の長寿命化を見据えた内外装、設備等の改修及び執務環境の改善を行ったものである。

【耐震化対策】[①1)-(b)、①2)-(a)、①2)-(j)]<添付1、2、3>

補強方法としては、本庁舎(本館)は制震ブレースと壁型粘弾性・摩擦複合型ダンパーで構成する制震補強を、議会棟(旧館)は鉄骨ブレース工法による耐震補強を基本とした。本庁舎(本館)で採用した壁型粘弾性・摩擦複合型ダンパーは、制震ブレースに比べ、設置幅を小さくできることから、開放感のある自由度の高い執務空間を確保することができた。補強部材の取付けにおいては、BIM、3Dスキャナ等を使用し、施工精度を高め、構造体の品質の向上を図った。

【長寿命化対策等】[①2)-(h)、①2)-(i)]<添付2>

改修工事に当たり、建築面では窓、屋上防水等の高气密・高断熱化を、設備面では高効率型の電気・空調設備機器を採用することにより、環境負荷の低減を図った。また、木材利用促進の観点から、執務空間の腰壁や天井ルーバーなどに積極的に木材を使用した。

執務空間については、元々中廊下型であった室配置を原則オープンフロア化したことにより、組織改編時においても柔軟な課室の配置が可能となっている。

【災害対策】[①2)-(l)]<添付4>

災害対策拠点施設としての機能を強化するため、電源の二重化や浸水対策等を施した「エネルギーセンター棟」を新築した。なお、本棟は既存建物に囲まれた位置にあり、設計及び施工に当たっては困難を極めた。

【建築当初の意匠の踏襲】[①2)-(e)、①2)-(f)]<添付5、6>

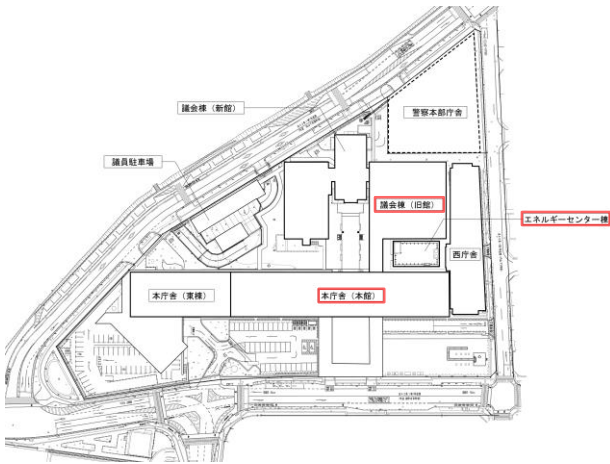
本館等は、歴史的・文化的価値のある建築物として「DOCOMOMOjapan」に選定されている。このことを踏まえ、建物の外観改修においては、建築当時の意匠を維持、または再現することを原則とした。しかし、建築当時と全く同じ材料の入手は困難であること、また、耐震化工事という性質上、使用材料の軽量化を図ることが求められることから、適時、原寸モックアップによる確認も行いながら、必要な機能的更新を図った上で使用材料や納まりを決定した。

なお、本工事の完成に合わせ、県庁舎建築の魅力や本工事の成果等を展示するスペースを設けることとしており、県民等に向け、広く情報を発信することとしている。

【居ながら施工への対応】[①2)-(l)]<添付7>

本工事は本庁舎(本館)を縦方向に3つの工区に分け、順次、空室とした上で実施した。そのため、工事中は工区が分断され、工区間の移動が煩雑になることが予想されたが、関係者間で綿密な調整を図り、工事中も複数の横動線を確保するなど、施設利用者の利便性に配慮した工事計画を策定した。

9. 事業内容・添付資料



＜配置図＞

【施設概要】

敷地面積: 20,286.62 m²

構造等: (耐震化・長寿命化改修)

本庁舎(本館)

鉄骨鉄筋コンクリート造 地上9階、地下1階

建築面積 2,321.20 m²

延床面積 19,940.23 m²

議会棟(旧館)

鉄筋コンクリート造 地上3階、地下1階

建築面積 1,429.03 m²

延床面積 4,383.82 m²

(新築)

エネルギーセンター棟

鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階

建築面積 253.25 m²

延床面積 1,471.19 m²



＜添付1: 制震ブレス＞



＜添付2: 複合型ダンパー＞



＜添付3: 複合型ダンパー(周囲を覆い、什器として利用)＞



＜添付4: 外観(エネルギーセンター棟)＞



＜添付5: モックアップ 左:カーテンウォール、右:タイル等＞



＜添付6: 外構グリッドデザインの再現＞



＜添付7: 工区分けイメージ図＞